# 4.2 リモート管理機能の設定

Eclipse でアプリケーションを開発するためには、リモート管理機能を設定する必要があります。J2EE サーバの起動、停止などの操作は、リモート管理機能を使用します。

リモート管理機能へのログイン, ログアウトや, リモート管理機能を使用するための接続ホストの新規追加, 編集, および削除について説明します。

# 4.2.1 リモート管理機能へのログインおよびログアウト

リモート管理機能へのログインおよびログアウトの操作方法を説明します。

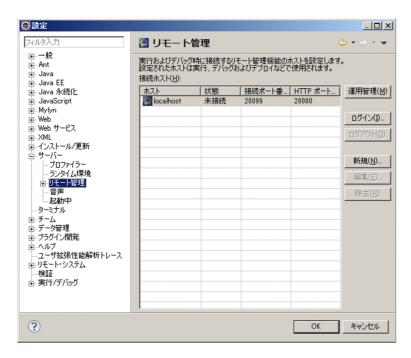
#### 参考

ソケット操作のブロックのタイムアウト設定をデフォルトの値から変更したい場合は、Management Server リモート管理機能にログインする前に変更してください。変更手順については、「2.6.2 ソケット操作のブロックのタイムアウト設定変更」を参照してください。

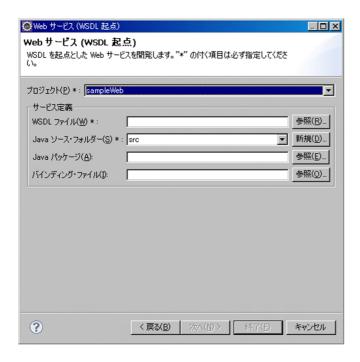
## (1) リモート管理機能へのログイン

リモート管理機能へのログイン手順を次に示します。

- 1. Eclipse のメニューから,[ウィンドウ]-[設定]を選択します。
- 2. 左ペインのツリービューで [サーバー] [リモート管理] を選択します。 [リモート管理] ページが表示されます。



3. 接続する Management Server のホストを選択し、[ログイン] ボタンをクリックします。
Management Server の管理ユーザの設定で管理ユーザの認証を [認証あり] に設定している場合は、「ログイン・リモート管理] ダイアログが表示されます。



## 注意事項

[プロジェクト・エクスプローラー]ビューなどの選択状態によっては,[Web サービス (WSDL 起点)]ダイアログを表示した場合に,[プロジェクト]が空の状態に関わらず,[終了]ボタンが活性化していることがあります。 [終了]ボタンをクリックすると,Eclipse の API の挙動により,エラーダイアログとエラーログにInvocationTargetException,および NullPointerException が出力されることがあります。この場合,[プロジェクト],および,[Java ソース・フォルダー]を指定すると,処理を続行できます。

#### 4. 次の項目を指定します。

項目名	指定値
プロジェクト	ワークスペースの動的 Web プロジェクト名または EJB プロジェクト名を選択します。
WSDL ファイル	WSDL ファイル,または WSDL ファイルの URL を指定します。
Java ソース・フォルダー	Java ソースを生成するフォルダを指定します。

次に示す設定をした場合, [Web サービス (WSDL 起点)] ダイアログを表示すると, [Java ソース・フォルダー] が空欄となり, 以降の操作ができなくなります。そのため, [Java ソース・フォルダー] には, プロジェクトルート以外を設定してください。

• Web サービスの開発に使用するプロジェクトの[プロパティ]ダイアログの[Java のビルド・パス]ページで、[ソース]タブの[ビルド・パス上のソース・フォルダ]にプロジェクトルートを設定した場合

また, [プロジェクト] および [Java ソース・フォルダー] に入力した値を変更すると, 次に示す項目の値が初期状態に戻ります。

• [プロジェクト] の値を変更した場合 [WSDL ファイル], [Java ソース・フォルダー], [Java パッケージ], および [バインディング・ファイル] の値が初期状態に戻ります。

作成〕を指定します。

7. [終了] ボタンをクリックします。

選択したリソースがコピーされます。

8. ライブラリを移行します。

手順 1. ~ 3. を実行して, [インポート] ダイアログの [ファイル・システム] ページを表示します。

9. [次のディレクトリーから] に,移行する EAR プロジェクトロケーションディレクトリ ¥<EAR のルートフォルダ > を指定します。

[参照] ボタンからも指定できます。

インポートの選択ペインに指定されたディレクトリ内のフォルダおよびファイルが表示されます。

10.移行するリソースを選択します。

右ペインで移行するライブラリのチェックボックスをチェックします。

- 11. [オプション] で「選択されたフォルダのみを作成」を指定します。
- 12. [終了] ボタンをクリックします。

選択したリソースがコピーされます。

#### 注意事項

- 移行対象となるリソースについては、「付録 J.2 移行対象となるリソース」を参照してください。
- Windowsのエクスプローラを使用してファイルをコピーすることもできます。ただし、エクスプローラを使用した場合、「プロジェクト・エクスプローラー」などのビューにコピーしたフォルダやファイルが表示されません。コピーしたフォルダやファイルを表示するには、「プロジェクト・エクスプローラー」ビューでプロジェクトを選択し、コンテキストメニューから「更新」を選択してください。
- (b) application.xml の移行方法

エンタープライズアプリケーションプロジェクトを作成する際に、application.xml のひな型が生成できます。生成した application.xml に、移行前の環境で使用していた application.xml の定義内容をコピーします。エンタープライズアプリケーションプロジェクトの作成については、「4.4.4 エンタープライズアプリケーションプロジェクトの作成」を参照してください。

次に、WTPで自動生成された application.xml の例を示します。

application.xml は,エンタープライズアプリケーションプロジェクト作成時に設定した情報を基に自動生成されます。次に,application.xml のそれぞれのタグについて説明します。

#### ● <display-name> タグ

エンタープライズアプリケーションプロジェクトの作成時に, [EAR Application Project] ページで指定した [Project name] が自動設定されます。

[ログイン・リモート管理]ダイアログ 90, 224

プロジェクトのデバッグの設定 167 プロジェクトのビルド 292 プロジェクトのプロパティの移行 291

## ほ

[ポート番号の設定]ページ 42 [ポート番号の設定変更]ページ 58

## め

メールコンフィグレーションの取得 313 メールコンフィグレーションの設定 312 メールコンフィグレーションを使用しない場合 313 メッセージの作成 313 メッセージの送信 314

## ゆ

- ユーザ拡張性能解析トレース 4
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイル 4
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイルのインポート 148
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイルのエクス ポート 156
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイルの作成および設定 147
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイルの作成および設定の流れ 147
- ユーザ拡張性能解析トレース設定ファイルの編集 149
- ユーザ拡張性能解析トレースの設定 158
- ユーザ拡張性能解析トレースの利用による J2EE アプリケーションの性能解析 4
- ユーザ拡張性能解析トレースを使用した J2EE アプリケーションのテスト支援機能 6

## ら

[ライブラリーの追加]ダイアログ 220

## IJ

リクエストで使用する場合の注意事項 19 リソースアダプタのインポート 107 リソースアダプタのプロパティ設定 258 リダイレクトによるエラーページの生成 119 リモート管理機能へのログインおよびログアウト 90 リロード機能 3, 10

## ろ

ローカル変数情報の出力の設定 52